北朝鮮における世襲による権力継承

礒　﨑　敦　仁

1．はじめに

1990 年代，北朝鮮（朝鮮民主主義人民共和国）をめぐっては，冷戦終結とそれに伴う未曽有の経済危機から，いわゆる「崩壊論」も浮上していた[1)]。しかし，2018 年 9 月に建国 70 周年を迎えた北朝鮮の寿命は，既にソ連のそれを超えている。金日成（1912 – 1994），金正日（1942 – 2011），金正恩（1984 – ）という親子三代にわたる権力継承の成功が同体制の長期的持続を可能にした大きな要因であることは言うまでもない[2)]。

それは，社会主義を標榜する国家として初めての世襲による権力継承であった。平等を是とする社会主義の思考に反するはずの「世襲」は，北朝鮮で出版された朝鮮語辞典においても「古い社会で身分，職業，財産等を一つの家の中で子孫に代々譲るようになっていること」などと否定的に定義されている[3)]。

金日成から金正日への世襲を第 1 次権力継承，金正日から金正恩への世襲を第 2 次権力継承と位置付けた場合，それぞれ個別に多くの先行研究がある。例えば鐸木昌之は，北朝鮮政治体制を「首領制」と定義付け，金正日が正統性を確保する過程について検証した[4)]。イデオロギー的傾向の強かった北朝鮮研究において，一次資料の精査で第 1 次権力継承を描いたものであった。その後，韓国人研究者も成果を発信している[5)]。朝鮮労働党中央委員会の元書記で 1997 年に韓国に亡命した黄長燁らの証言により実態解明も進んだ。

一方の第 2 次権力継承については，韓国をはじめ，わが国においても多くの論稿が同時代的に公刊された[6)]。金正恩公式化の舞台となった朝鮮労働党の第

3 回代表者会と中央委員会 2010 年 9 月全員会議で行われた重要人事に焦点を当てた研究成果も多い[7]。二度の権力継承で金正日と金正恩がそれぞれいかに軍を掌握したかについても，一次資料に基づいた先行研究がある[8]。

しかし，両者の間にいかなる相違点があったのかを明示した論考は多くない。そこで本稿では，二度の権力継承過程と背景がいかなるものであったかを改めて整理し，両者の相違点を抽出してその理由を探る。それにより，権威主義体制における世襲による権力継承の比較研究にも資する基礎的な素材を提供したい。

金正恩政権下で，朝鮮労働党の正史である『朝鮮労働党歴史』が 12 年ぶりに改訂されたほか，金日成や金正日の伝記も改定版が出版されるなど，二度の権力継承について検証すべき事項が増加した[9]。これらの資料も活用することにする。

2．第 1 次権力継承

（1）過程

金日成から長男・金正日への権力継承が内定したのは 1974 年 2 月のことである。金正日が 31 歳の時であった。

平壌で 2013 年に増補版が刊行され，2015 年にその和訳が出版された金正日の伝記では，金正日が後継者としていかなる資質を兼備していると宣伝されているかが分かる。誕生から青少年期（1942 – 1960 年）までを扱った第 1 章では，「白頭山密営で誕生，偉大な革命家に成長」，「金日成将軍の略伝研究サークル結成，金日成将軍を見習い，断固擁護するために」，「学生青少年を社会主義建設者として準備させるために」と題する三つの節でその業績を称えている。金日成は，「後継者の表徴で基本をなすのは領袖とその偉業に対する忠実性，徳義である」と述べており，金正日が幼少期からその資質を持っていたと説明される[10]。大学生時代（1960 – 1964 年）を扱った第 2 章は，「先軍革命指導の開始，チュチェの革命偉業継承のために」，大学卒業後，後継者に決定するまで（1964 – 1974 年）を扱った第 3 章は，「党の唯一思想体系確立のための

活動を指導，先軍政治の開始」と題して，党中央委員会で精力的に活動する様子を中心に，軍事，経済政策のほか文学・芸術や対外活動など多様な分野で業績を残したことが示されている。ここで強調されているのは，後継者としての万能さである。

金正日は，1964 年 3 月に金日成総合大学を卒業後，党中央委員会での勤務を開始した。先行研究からも，党の正史を振り返っても，金正日の権力掌握が党組織の掌握から開始されたことは明白である。党正史では，党中央委員会で指導員，課長を経て 1970 年 9 月に副部長，1973 年 7 月に部長の重責を担い，1972 年 10 月には中央委員に，1973 年 9 月には書記に選出されたとされる[11)]。1970 年には早くも党宣伝扇動部の副部長，1973 年 7 月には部長に就任するなど，1942 年生の金正日は 20 代から 30 代初めにかけて破格の出世をしていた。既に 1960 年代から金正日を金日成の唯一の後継者として戴くことが「全党員と人民の切々たる願いとなり」，1970 年代の初めには「押しとどめることのできない時代の流れとなった」と説明されている[12)]。

1974 年 2 月 13 日，朝鮮労働党中央委員会第 5 期第 8 回全員会議において，金正日が後継者に内定した。正史は，「党の領導者として高く推戴」されたと位置づけている[13)]。金一政務院総理が金日成の意志を 100% 体現し，領導者の風貌を完全に持っている金正日を「党の首位」に高く推戴することを提案し，次のように述べたとされる。

「首領様（金日成）は，10 代で既に革命の道に出られ，20 代で抗日遊撃隊を創建され，30 代で祖国を解放されて，わが党と人民を賢明に導かれました。親愛する金正日同志のお歳はその時の偉大な首領様と同じ 30 代です。提案は金一がしますが，われわれ抗日革命闘士と人民の一致した気持ちです。」[14)]

最高人民会議常任委員会書記長などを務めた林春秋が自ら講演原稿「英明な金正日同志はどのような方でいらっしゃるか」を準備して各地で講演活動を行い，金一や呉振宇国防委員会副委員長とともに『主体偉業の偉大な継承者金正日同志』，『主体偉業の完成のために英明な金正日同志に忠誠を尽くそう』といった書籍を執筆した。崔賢人民武力部長は，長い間，「金正日将軍」と呼んで称賛してきたという[15)]。このように金日成の側近幹部達によって金正日がいか

に支持されたかが強調されている。後継者の内定で重要な役割を担った彼らは，その後の後継体制構築の過程でも重宝された。

但し，金正日という名前が公にされたのは 1980 年 10 月の第 6 回党大会の際であり，それまでの 6 年間は代わりに「党中央」というコードネームが党機関紙『労働新聞』上で用いられた[16)]。しかし，近年刊行された金日成の伝記によれば，「軍隊と人民は，金正日を『親愛なる指導者』と呼んで絶対的に信頼し，欽慕の念を込めた頌歌を作ってうたい，主席の後継者として推挙する請願書や手紙を毎日のように党中央委員会に寄せた」[17)]とされている。また，後継内定前の 1973 年 1 月には既に，文化芸術部政治局で金正日の肖像画を掲げて「朝鮮労働党中央委員会金正日同志の唯一的指導体制を立てることについて」討議したとされる[18)]。

後継者内定を控えた 1972 年 12 月，北朝鮮は新憲法を制定していた。その名に「社会主義」が冠されたこの憲法では，従来の首相制に代わり，大幅に権限が強化された主席制が導入され，主体思想が国家の「指導的指針」であると初めて謳われた（第 4 条）。さらに遡り，1967 年 5 月に開催された党中央委員会第 4 期第 15 回全員会議以前から，既に金日成後が主要な問題になっていたとの指摘もある。後述する，国際共産主義運動における教訓が背景にあった[19)]。

第 1 次継承の起点をどこに設定するかについては議論の余地があるが，それが党の継承から始まったことは間違いない。金正日が後継者に決定した 1970 年代に党中央委員会政治委員会よりも書記局に権力の重心が移動し，すべての政策と人事等の決定権が党書記局と専門部署に移管されたとの指摘もある[20)]。

当時，金正日の名が公にされていなかったこともあり，国外でも第 1 次継承について報じられる内容はきわめて限定的なものであった。日本では 1975 年 9 月に，米ニューズウィーク誌の報道を引用する形で，金日成の後継者に「金正一」が選出され，同氏は「組織・宣伝面の責任者」であるなどと報じられた程度であった[21)]。キムジョンイルの漢字が不明で「金正一」と表記されたことは，第 2 次継承においてキムジョンウンの漢字や正確な発音が不明で「金正雲」「金正銀」などと当て字で報じられたことを想起させる。

金正日は，後継内定から数日後に開催された全国党宣伝活動家講習会におい

て，「全社会の金日成主義化を目指す党思想教養活動の当面のいくつかの課題について」と題する演説を行い，「全社会の金日成主義化」を党の戦略的目標に据えた[22)]。党正史は，後継内定後から公式化されるまでにおける金正日の最たる業績として，「金日成主義」を定式化して「全党金日成主義化」の方針を打ち出したことを挙げている[23)]。「党事業における根本的転換」を図ったとして，1974 年 4 月 14 日に「全党と全社会に唯一思想体系をさらにしっかりと立てよう」と題する演説を行ない，「党の唯一思想体系確立の 10 大原則」を提示したことなども挙げられている[24)]。

「10 大原則」は，金正日が「全社会の金日成主義化」を具現化するため党幹部に対して発表したもので，「乳幼児と義務教育世代を除くほぼすべての国民が，『十大原則』の冊子を持たされている」，「義務教育を終えたすべての人に対し，『十大原則』の暗記が義務付けられている」と証言されるものである[25)]。序文と後書きの間に 10 個の原則が掲げられ，各原則に 3ヵ条から 10ヵ条の具体的指針が示される。根幹をなす 10 個の原則は，次のような内容であった。

①偉大な首領金日成同志の革命思想で全社会を一色化するために身を捧げて闘争しなくてはならない。
②偉大な首領金日成同志を忠誠で高く仰ぎ仕えなければならない。
③偉大な首領金日成同志の権威を絶対化しなくてはならない。
④偉大な首領金日成同志の革命思想を信念として首領様の教示[26)]を信条化しなければならない。
⑤偉大な首領金日成同志の教示執行で無条件性の原則を徹底的に守らなければならない。
⑥偉大な首領金日成同志を中心とする全党の思想意志的統一と革命的団結を強化しなければならない。
⑦偉大な首領金日成同志に倣って共産主義的風貌と革命的事業方法，人民的事業作風を持たなければならない。
⑧偉大な首領金日成同志が抱かせてくださった政治的生命を貴重なものとして，首領様の大きな政治的信任と配慮に高い政治的自覚と技術で忠誠をもって応えなければならない。
⑨偉大な首領金日成同志の唯一的領導のもとに全党，全国，全軍が一体となって動く強い組織規律を立てなければならない。

⑩偉大な首領金日成同志が開拓された革命偉業を代を継いで最後まで継承完成していかなければならない[27)]。

また，金正日は，1973 年 2 月の党中央委員会政治委員会拡大会議を契機に開始された「三大革命小組運動」，1975 年 11 月に開始された「三大革命赤い旗獲得運動」，1979 年 10 月に開始された「隠れた英雄達の模範に従って学ぶ運動」といった大衆運動を通じて青年組織の掌握を図った[28)]。

金正日公式化の舞台となった第 6 回党大会は，1980 年 10 月 10 日から 14 日にかけて開催され，3,220 名の代表が参加したとされる。①金日成総書記による党中央委員会事業総括報告，②党中央検査委員会事業総括報告，③党規約改正，④党中央指導機関選挙（委員 145 名，委員候補 103 名）の四議題が扱われ，最終日に開催された党中央委員会第 6 期第 1 回全員会議で金正日が政治局常務委員，書記，中央委員会軍事委員に選出された。開催当時の『労働新聞』は，金正日が「後継者」であると述べてはいないが，後年になってから同大会の主目的が金正日の公式化にあったことが明らかにされている[29)]。

大会初日の様子を伝える『労働新聞』1980 年 10 月 11 日付は，普段の 6 面構成から大きく紙面を増やして異例の 18 面構成となっており，同大会の重要性を物語っていた[30)]。しかし，金正日が序列 2 位として明確に位置付けられたわけではなかった。金正日の名は大会執行部の一員として，金日成を筆頭に，金一，李鐘玉，呉振宇に次ぐ 5 番目に紹介された[31)]。

金正日は，党政治局常務委員会入りし，そこでは金日成，金一，呉振宇に次ぐ 4 番目に紹介されたが，政治局，書記局，軍事委員会の三部署でポストを持ったのが金日成と金正日のみだったことから，金正日が後継者であることが暗示されたのである。現在では金正日を「党の首位に高く奉じて革命と建設の全ての分野で党の唯一的領導体系を確立」した大会だったと説明されている[32)]。2004 年，金正日時代に刊行された党正史でも第 6 回党大会の意義は同様に語られている[33)]。しかし，金日成存命中の 1991 年に刊行された党正史では，あくまでも党大会での主人公は金日成であり，金日成が党中央委員会事業総括報

告を行い，党規約を改正したことが記述された。金正日については一言も触れられていない[34]。

朝鮮労働党中央委員会総書記　金日成 党中央委員会政治局常務委員会　金日成　金一　呉振宇　金正日　李鐘玉 党中央委員会政治局委員（19 人）　金日成　金一　呉振宇　金正日　李鐘玉　朴成哲　崔賢　林春秋　徐哲　呉白龍　金仲麟　金永南　全文燮　金煥　延亨黙　呉克烈　桂応泰　姜成山　白鶴林 党中央委員会書記局（10 人） 　総書記　金日成 　書記　金正日　金仲麟　金永南　金煥　延亨黙　尹基福　洪時学　黄長燁　朴洙東 党中央委員会軍事委員会（19 人） 　委員長　金日成 　委員　呉振宇　金正日　崔賢　呉白龍　全文燮　呉克烈　白鶴林　金鉄万　金強煥　太秉烈　李乙雪　朱道日　李斗益　趙明録　金逸哲　崔相旭　李奉元　呉龍邦[35]

公式化後の金正日は，金日成の「現地指導」に準ずる形で「実務指導」と称する視察を開始した。1982 年 4 月の金日成古希に際しては，実務指導で主体思想塔や凱旋門など「記念碑的建造物」の建設が進められた。同年 3 月には「主体思想について」，1983 年 5 月には「マルクス・レーニン主義と主体思想の旗幟を高く掲げて進もう」と題する論文が発表された。カール・マルクス没後 100 年に際し，金正日が主体思想について解説したこれらの論文は国内外で積極的に流布され，イデオロギーの解釈権を掌握したことが誇示された。

1983 年 6 月には胡耀邦総書記の招きで中国を非公式訪問している。金日成が死去して金正日が「最高領導者」になるまで外遊はこの一回だけであったが，平壌で外国からの賓客に接見するなど対外活動自体は活発化していった。後継決定当初は，金日成が自ら進んで権力を金正日に引き渡すため意図的に努力したが，金正日があらゆる分野を実質的に掌握するようになると，1990 年代に入ってから金日成は金正日の「顧問格」になってしまった，と黄長燁は証言している。1974 年から 1985 年は「金日成・金正日」の，1985 年から 1994

年は「金正日・金日成」の二重政権時代であったというのである[36)]。

公式化されてから 10 年が経とうとしていた 1990 年 5 月 24 日，金正日は最高人民会議第 9 期第 1 回会議において新設ポストである国防委員会第 1 副委員長に就任し，1991 年 12 月 24 日の党中央委員会第 6 期第 19 回全員会議で朝鮮人民軍最高司令官に推戴されている。さらに，1992 年 4 月 20 日に共和国元帥称号を授与され，1993 年 4 月 9 日，最高人民会議第 9 期第 5 回会議で国防委員会委員長に推戴された。「全員賛成」で反論の余地がない形式的なものであるとはいえ，会議を開催するというプロセスを経てしかるべき地位に就いたのである。しかし，軍を指導する立場にある党中央軍事委員長のポストは，金日成が持ち続けたことになる。

金日成が 1994 年 7 月に死去すると金正日が予定通り権力を継承した。金正日が公式化されてから金日成が死去するまで結果として 14 年間もあった。金正日が後継者として内定した 1974 年から数えれば 20 年間かけて慎重且つ着実に権力継承準備を進めてきたことになる。金日成の長寿が体制の長期化に貢献したとも言える。

（2）背景

金日成は実弟である金英柱を後継者として考えた時期もあり，後継者の座をめぐって熾烈な権力闘争があったとの証言も残っている[37)]。しかし金英柱は，金正日が後継者に決定した直後に政務院副総理に任命されている[38)]。突然意識不明に陥ることがあるなど健康不安を抱えていたとの証言もある[39)]。黄長燁によると，金正日は 1974 年に後継指名を受けた後，叔父の金英柱を北朝鮮北部，両江道のとある山奥に送って軟禁したという[40)]。金英柱の名は，1975 年 7 月を最後にいったん公式報道から消え，1993 年 7 月に再び報じられるようになったが，金正日の権力基盤はこの間に盤石なものとなっていた。金英柱は，同年 12 月の最高人民会議第 9 期第 6 回会議で国家副主席という名誉職に祭り上げられた。

金正日は，異母弟を粛清こそしなかったが，金平一は，1980 年代から 2019 年まで外交官として在外のままであった。ハンガリーやブルガリア，フィンラ

ンド，ポーランド，チェコに駐在する大使として平壌から遠ざけられてきた。

北朝鮮では金正日後継に対する反対を理由にして粛清された人々について一切明らかにしていない。それまでの粛清に関しては金日成が何らかの形で必ず言及していたにもかかわらずである[41)]。また，金正日に匹敵する者はいないとの結論に達したものの，短い期間ながら 1972 年には，金正日以外の第二世代も後継者の対象として検討されたことがあるとの証言も存在する[42)]。

自らの子息を後継者にすることについて国内外からの反発が予想されたにもかかわらず，なぜ金日成はそれを強行しようとしたのだろうか。鐸木は，後継者問題が切実だった背景に「国際共産主義運動における教訓」があったと指摘する[43)]。すなわち，金日成は 2 つの同盟国の教訓から世襲を強行した。ソ連のスターリンは後継者を指名しないまま死去したため，マレンコフとフルシチョフの間で権力闘争が生じたばかりか，スターリン批判が起きた。1956 年 2 月にモスクワで開催された第 20 回ソ連共産党大会で，絶対権力者として権勢を振るったスターリン閣僚会議議長兼共産党書記長の後継者となったニキータ・フルシチョフ党第 1 書記によって個人崇拝が否定されたのである。一方，中国では 1971 年 9 月，事実上毛沢東の後継者に指名されていた林彪国防部長による毛沢東暗殺未遂事件が発生していた。林彪事件である。金日成は，これらを教訓として，早い段階で後継者を指名するとともに，それは裏切らないであろう身内から選ぶべきだという結論に至った。

ソ連と中国から得た教訓について，北朝鮮研究者は，『後継者論』という単行本の言及に着目してきた。著者は金裕民，出版社はソウルの新文化社となっている同書は，東京の九月書房で翻刻出版されている。鐸木は，北朝鮮で書かれたものであることは間違いないとしている[44)]。

「1953 年にスターリンがこの世を去った後，共産党の重要なポストに長い間隠れていた野心家のフルシチョフによってレーニン，スターリンの偉業は深刻な挑戦を受けるようになった。野心家のフルシチョフは，スターリンが指名した後継者であるマレンコフを騙し，陰謀的方法で共産党の指導権を掌握し，レーニンの偉業に忠実なスターリンの功績を抹殺しようと躍りでた」として，スターリン批判に対する批判を展開している[45)]。

実際に，北朝鮮では第 20 回ソ連共産党大会から帰国した崔庸健が朝鮮労働党中央委員会全員会議で報告を行い，金日成は「個人崇拝がどれほど有害」かについて述べたとされている。また，朝鮮労働党第 3 回大会に招かれたブレジネフは，挨拶の中で「集団的指導に関するレーニン的原則」について語ったが，和田春樹はそれについて「それは明らかにスターリン批判を取り入れるよう朝鮮の党に圧力を加えたもの」と評価している[46)]。

一方，中国について『後継者論』は，「首領の後継者として指名された人が自らの首領を殺害して権力を奪取しようとした，驚くべき事件が発生した」と説明している[47)]。

両国の教訓から，「首領の後継者は，首領を最も身近で補佐する党と人民の唯一指導者，首領の代を継ぐ未来の首領として神聖不可侵の絶対的な地位を占める」とされた[48)]。また，「首領の後継者は，首領の革命偉業を継承して完成していく闘争で，唯一指導者としての絶対的地位を占める。後継者のこの絶対的地位は，卓越した指導者が首領の後継者として登場し，首領の事業を補佐する時から始まり，首領の革命偉業が完成する時まで継続される。」「後継者は，首領を奉じていく党と国家の個別の指導幹部達と根本的に区別される」とされた[49)]。北朝鮮は，ソ連と中国における後継者問題の失敗から教訓を得たことになる。各国から教訓を得て体制の長期的持続に役立てた例は少なくない[50)]。

金日成は，「わが党が領導の継承問題を革命発展の要求と人民大衆の念願に合うように円満に解決したのは，われわれの党建設の最も誇らしい成果であり，これはわが党とわれわれの革命の洋々たる前途と輝かしい勝利を確固として担保してくれた」と評価している[51)]。後継者問題の解決は，体制長期化に大きく資するものであった。

しかし同盟国の中国は，党機関紙『人民日報』を通じて北朝鮮の権力世襲を暗に批判した。あくまでも中国の国内政治を論ずる論評ではあるが，金正日公式化の直前に「われわれは社会主義国家であり，人民が一家の主である。われわれの民主は，資産階級の民主に比べてより先進的でなければならない。もし資産階級でさえ封建主義の『終身制』と『後継者』指名制度を放棄したならば，社会主義の政治制度はさらにそうあるべきである。」「党組織が『後継者』

を前もって決定し，次の指導者にする準備をしても良いのか。否，それに及ばない。これは『一人の首領（「領袖」）』と『終身制』を前提とした施策である。この前提はそれ自体が誤っているのである」などと述べられた[52)]。中朝が後継者問題について全く異なる見解を持っていたことは明らかであった。

一方，後継内定に対して北朝鮮国内で批判があったかどうかは詳らかでない。しかし，金正日による指導権の拡張強化をめぐっては，指導部内において何らかの摩擦，対立が存在したものと考えられている。1977 年 12 月，最高人民会議第 6 期第 1 回会議において金東奎が副主席に再選されず，その後動静報道が途絶えるなど，不自然な人事異動が見られたことが根拠とされる[53)]。

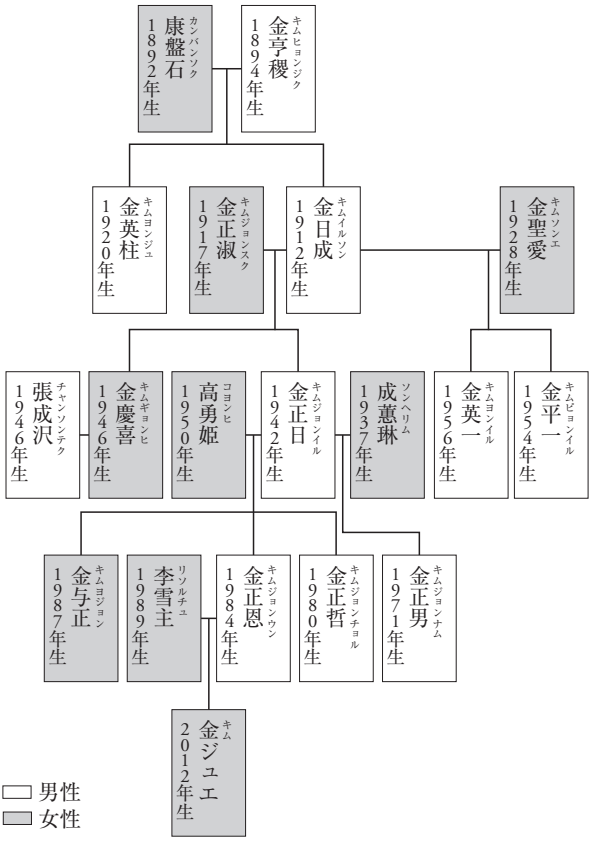
金正日の公式化後は，その人物像についての宣伝扇動が表面化し，内外で多くの出版物が刊行され，世襲の正当化が図られた[54)]。金正日の生母である金正淑に対する個人崇拝も本格化した。

1991 年に在日本朝鮮人総聯合会（朝鮮総聯）が出版した『後継者問題と朝鮮』によると，後継者選出の大原則は「人物本位」にあるとされた。「傑出した人物でなくては後継者として首領の地位と役割を到底継承することができない」として，「傑出した人物」の条件として，①首領に対する無限の忠実性，②非凡な叡智，③卓越した領導力，④高邁な徳性を挙げている[55)]。

さらに，血縁問題にも触れている。「もともと革命闘争においては，血縁的関係より同志的関係がより重要だ」としつつも，「後継者としての資質と品格を立派に備えているのに，彼が首領と血縁関係にあるからと言って躊躇して彼を後継者に推戴しないのもおかしい」などとして，「世襲制」だとの批判に対して反論している。「首領の後継者問題は，革命の最高脳髄，社会政治的生命体の中心である首領の地位と役割を継承することであって，ここでは『世襲制』のように血縁による承継が制度化されえない」としている[56)]。金正日の場合は，人物本位で後継者に選出されたのであり，世襲は結果論であるという見解が示されたのである。

「人物本位」という大原則を繰り返し主張しつつ，後継者選出で遵守すべき原則的問題として，①全人民的推戴にもとづいて選出されるべき，②新たな世代の人物を選出すべき，③首領生存時に選出されるべき，としている[57)]。

金日成・金正日・金正恩家系図



出所：礒﨑敦仁・澤田克己『新版北朝鮮入門』東洋経済新報社，2017 年，48 頁を一部修正。

対外情報調査部副部長を務め，西側に亡命したとされる朴炳燁は，「三十代前半の若さで国家を率いる指導者に選ばれた人物であれば，彼に相応の根拠があるとみるのが妥当だ。金正日にはカリスマ性が不足しているとか，指揮統率力に欠けるとか，支持基盤が脆弱だとかの判断は表面的な観察にすぎない」と評している[58)]。

3．第 2 次権力継承[59)]

（1）過程

2010 年 9 月 28 日，朝鮮労働党の代表者会が 44 年ぶりに，中央委員会全員会議が 17 年ぶりに開催され，翌日未明には金正日の三男といわれる金正恩の名が入った幹部名簿が発表された。後に第 3 回と冠されるようになったこの党代表者会において，金正恩は党中央軍事委員会に新設された副委員長職に就き，事実上後継者としてお披露目されたことになる。その時点で北朝鮮の公式メディアが同氏を「後継者」だと明言したわけではなかったが，2009 年から同国内では，金正恩が金正日の「革命偉業」を継承する人物であるとして多様な宣伝活動が展開された。また，党代表者会直後に公開された映像を見ても，一人だけ極端に若く，唯一人民服を着用した人物が最前列におり，彼こそが後継者であることを内外に印象づけるものであった。

但し，金正恩時代になってから刊行された出版物によれば，金日成軍事総合大学の学生だった金正恩は，2005 年 5 月に金日成の生家である平壌の万景台を訪れて，初めて後継者となる決意を幹部に披歴したとされている[60)]。

2010 年 6 月 26 日付『労働新聞』は，1 面トップで「朝鮮労働党代表者会を招集することについて」と題する同月 23 日付「党政治局決定書」を発表した。「党中央委員会政治局は，主体革命偉業，社会主義強盛大国建設の偉業遂行で決定的転換が起きているわが党と革命発展の新たな要求を反映して，朝鮮労働党最高指導機関選挙のための朝鮮労働党代表者会を主体 99（2010）年 9 月上旬に招集することを決定する」[61)]というものであった。党代表者会の開催は，「選挙」，「選出」というプロセスを踏む，「実務的手続き」にこだわったものとも捉えられた。金正恩政権発足後も「実務的手続き」についてのこだわりが随所に見られる[62)]。

2008 年夏から健康悪化が噂されてきた金正日にとって何よりも優先されるのは体制の維持であり，それは中長期的には後継体制の整備を意味した。党代表者会の開催が発表されてからの『労働新聞』の論調は，開催意図を探るうえで手がかりになりうるものであった。

第一に，党代表者会を党大会に匹敵する大行事として掲げるとともに，「大祝典場」とされる 10 月 10 日の党創建 65 周年と常に並列させて「慶事」と規定した[63]。7 月後半には党代表者会に向けた決起集会も相次いで開催されている[64]。「党最高指導機関選挙」，すなわち高位級幹部の人事が議題として事前に公表されたことも特徴的であった。

第二に，金正恩の名や後継者問題についての直接的言及は皆無だが，前年同時期と比べてそれを示唆する表現が格段に増えた。その傾向は「9 月上旬」が近づくにつれ強まり，「金日成民族」，「金日成朝鮮」や「革命の継承」がことさらに強調されるようになった。

第三に，党代表者会開催に至るプロセスが公表されている点である。8 月 26 日からは，「最近，市（区域），郡党代表会が開催」されていると報じられるようになり，その後の省庁レベル，道レベルの党代表会開催についてはより具体的に報じられている[65]。

党代表者会は，金正日の「先軍革命領導」開始から「50 周年」というタイミングの中で開かれようとしていた。同年元日付の「新年共同社説」においても，「人民軍では，敬愛する最高司令官金正日同志が先軍革命領導を開始されて 50 周年になる意義深い今年，先端を突破することに対する党の思想を奉じ，すべての軍事政治事業を最上の水準に設計して進めることによって，無尽莫強な白頭山革命強軍の威力をさらに高く轟かせなければならない」と述べられた[66]。

党代表者会開催翌日の 2010 年 9 月 29 日付『労働新聞』は，金正日が総書記に再推戴されたニュースをカラーの大きな肖像画とともに一面全面を使って紹介し，同会開催の第一の意義付けがそこにあるように示された。党代表者会には，代表者 1657 名のうち 1653 名が出席したとされ，議題として開催直後に公表されたのは，①わが党とわが人民の偉大な領導者金正日同志を朝鮮労働党総書記に変わりなく高く推戴することについて，②朝鮮労働党規約の改正について，③朝鮮労働党中央指導機関の選挙，の三つであった[67]。

党代表者会開催当日の 2010 年 9 月 28 日未明，前日付の朝鮮人民軍最高司令官命令による金正恩への大将称号授与の事実が朝鮮中央通信を通じて発表され

た。北朝鮮の公式メディア上に初めてその名が登場し，金正恩が公式化された瞬間であったが，党代表者会開催を前に公式化されることは意外なことであった。

朝鮮人民軍最高司令官命令第 0051 号[68)]
△大将[69)]　金慶喜　金正恩　崔龍海[70)]　玄永哲　崔富日　金京玉
△上将　柳京
△中将　盧興世　李斗星　全京学　金国龍　黄炳瑞　呉日正
△少将　（氏名省略，計 27 名）

金正恩は人民軍大将になったことが公表された，まさにその日の党代表者会で党中央委員に選出され，同日開催の党中央委員会全員会議で中央軍事委員会副委員長に就任した[71)]。その事実は，金正日の掲げる「先軍政治」の継続意思が示されたものといえよう。前述の通り，金正日公式化の際には，党中央委員に選出された後，党中央委員会書記，政治局常務委員，中央軍事委員の三つのポストを掌握したのに対し，金正恩の場合は，常務委員や書記への就任ではなく，大将称号の授与と党中央軍事委員会副委員長という新設ポストへの就任によって公式化が図られたからである。

公式化は，金正恩の公式活動を可能にすることをも意味した。党代表者会当日行われた記念撮影の後，朝鮮人民軍第 851 軍部隊軍人の訓練視察（10 月 5 日報道），党創建 65 周年に際して開催された銀河水管弦楽団の「10 月音楽会」観覧（10 月 6 日報道）に続き，10 月 9 日には中央報告大会への出席，同日夜にはマスゲーム「アリラン」の会場で訪朝中の周永康・中国共産党政治局常務委員とも対面する等，金正恩の動静報道が連日続いた。最初の報道が軍人訓練の視察であったことも「先軍」継続の意思の表れだといえよう[72)]。第 1 次継承で公式化後の金正日が「実務指導」を開始した一方，公式化後の金正恩は，あくまでも金正日の「現地指導」や「視察」に随行する形で動静が報じられた。

第 1 次継承に比べ，後継者を早めに公式化することは，その後の後継準備期間を長くする狙いもあったものと考えられる。前述の通り 2010 年は，党創建 65 周年であるとともに，金正日が公式デビューして 30 周年，「先軍革命領導」

を開始して 50 周年ともされており，祝賀ムードを演出するための環境も整っていた。

金正日体制にとって党代表者会を開催することの意義は，党基盤の再生にもあったといえる。党基盤の再生は，党人事の立て直しと組織改編によって進められた。金正日は 1997 年 10 月 8 日に党総書記に推戴されているが，このポストは厳密には党規約外のものであった[73)]。1980 年党規約では，党中央委員会総書記のみ規定されており，金日成はまさにこのポストに就いていたからである。2010 年の党規約改正によって，党総書記が最高領導者であるという現状がようやく追認されたことになる。

常務委員は，金正日総書記，金永南最高人民会議常任委員長，崔永林内閣総理，趙明録国防委員会第 1 副委員長，李英鎬朝鮮人民軍総参謀長の 5 名であった。そのうち趙明録は，動静報道も稀ななかでの常務委員会入りとなった。金正恩はここに名を連ねず，公式化の舞台は党中央軍事委員会となったため，同委員会の地位が高まるものと考えられた。同委員会の復活と強化は，それまで標榜してきた「朝鮮労働党が領導する先軍政治」をより実体化していくということを意味した。党組織である中央軍事委員会の再生は，今後においても軍部が指導する軍事独裁体制ではなく，最高指導者を中心とした党が軍を利用しながらその体制を維持していくことを確認することとなった。

公表された党と国防委員会の人事，最高人民会議常任委員長，内閣総理，さらに人民武力部長等の職位を総合的に勘案すると，絶対的首位である金正日，及び同じく金日成の血を継ぐ金慶喜，事実上後継者としてデビューした金正恩の三者を除き，ナンバー2 不在の「バランス型人事」が採られたといえる。これによって，金正日の身に緊急事態が生じた場合に，金正恩がより高い地位に祭り上げられる，いわば危機管理体制が整った。

党代表者会で改正された党規約の序文は，「朝鮮労働党は，偉大な首領金日成同志の党である」から始まる。1980 年党規約の最初の一文が「朝鮮労働党は，偉大な金日成同志によって創建された主体型の革命的なマルクス・レーニン主義党である」であったことに比すれば，指導者の個人支配についてより直接的な表現となった。全 10 章 60 条からなる本文中でも随所で金日成の業績が

称えられている。世襲による権力継承が目指される以上，「金日成民族」，「金日成朝鮮」を従来以上に強調する教育・教化によって正統性確保が図られるのは当然のことであった。改正党規約序文でもその傾向が明確に表れていた[74]。

金正恩が公式化されてから 1 年 2 か月後の 2011 年 12 月に金正日が死去し，金正恩が「最高領導者」になる。その後最初に就任したのは朝鮮人民軍最高司令官の地位であった。12 月 30 日，党中央委員会政治局会議が開催され，金正日が「10 月 8 日に残した遺訓により」推戴されたのである。

その後，2012 年 4 月 11 日には第 4 回党代表者会で新設の党第一書記に推戴され，同時に政治局常務委員，中央軍事委員会委員長にも就任した。同月 13 日の最高人民会議第 12 期第 5 回会議では新設の国防委員会第一委員長に推戴された。同年 7 月 17 日には共和国元帥の称号を受けている。

2013 年 6 月 19 日には，金正恩が「革命発展の要求に合わせ党の唯一的領導体系をより徹底して打ち立てるために」と題する演説を通して「党の唯一的領導体系確立の 10 大原則」が定められた[75]。1974 年以来，実に 39 年ぶりとなる「10 大原則」の改訂であった。

1974「党の唯一思想体系確立の 10 大原則」	2013「党の唯一的領導体系確立の 10 大原則」[76]
①偉大な首領金日成同志の革命思想で全社会を一色化するために身を捧げて闘争しなくてはならない。	①全社会を金日成・金正日主義化するために身を捧げて闘争しなくてはならない。
②偉大な首領金日成同志を忠誠で高く仰ぎ仕えなければならない。	②偉大な金日成同志と金正日同志をわが党と人民の永遠の首領として，主体の太陽として高く奉じて仕えなければならない。
③偉大な首領金日成同志の権威を絶対化しなくてはならない。	③偉大な金日成同志と金正日同志の権威，党の権威を絶対化し，決死擁護しなくてはならない。
④偉大な首領金日成同志の革命思想を信念として首領様の教示を信条化しなければならない。	④偉大な金日成同志と金正日同志の革命思想とその具現である党の路線と政策で徹底的に武装しなくてはならない。
⑤偉大な首領金日成同志の教示執行で無条件性の原則を徹底的に守らなければならない。	⑤偉大な金日成同志と金正日同志の遺訓，党の路線と方針貫徹で無条件性の原則を徹底的に守らなくてはならない。

⑥偉大な首領金日成同志を中心とする全党の思想意志的統一と革命的団結を強化しなければならない。	⑥領導者を中心とする全党の思想意志的統一と革命的団結を百方に強化しなくてはならない。
⑦偉大な首領金日成同志に倣って共産主義的風貌と革命的事業方法，人民的事業作風を持たなければならない。	⑦偉大な金日成同志と金正日同志に倣って高尚な政治道徳的風貌と革命的事業方法，人民的事業作風を持たなければならない。
⑧偉大な首領金日成同志が抱かせてくださった政治的生命を貴重なものとして，首領様の大きな政治的信任と配慮に高い政治的自覚と技術で忠誠をもって応えなければならない。	⑧党と首領が抱かせてくれた政治的生命を貴重なものとして党の信任と配慮に高い政治的自覚と事業実績で応えなければならない。
⑨偉大な首領金日成同志の唯一的領導のもとに全党，全国，全軍が一体となって動く強い組織規律を立てなければならない。	⑨党の唯一的領導の下に全党，全国，全軍が一体となって動く強い組織規律を立てなくてはならない。
⑩偉大な首領金日成同志が開拓された革命偉業を代を継いで最後まで継承完成していかなければならない。	⑩偉大な金日成同志が開拓されて金日成同志と金正日同志が導いてこられた主体革命偉業，先軍革命偉業を代を継いで最後まで継承完成しなくてはならない。

構成は金正日が定めた 1974 年の「10 大原則」に則っている。権力継承の側面で注目すべきは，第 10 原則第 2 節で，「わが党と革命の命脈を白頭の血統で永遠に継いでいき，主体の革命伝統を絶えず継承発展させ，その純血性を徹底して固守しなくてはならない」とされた点である[77]。「10 大原則」に「白頭の血統」が明記されたことで，世襲による権力継承が制度化されたと評価できる[78]。

しかし，そのことが憲法で触れられることはない。1998 年 9 月改正憲法では，最高人民会議が「朝鮮民主主義人民共和国国防委員会委員長を選挙又は召還する」（第 91 条 5 項）とされ，2009 年 4 月改正憲法で国防委員長が「朝鮮民主主義人民共和国の最高領導者」（第 100 条）であると定められ，「全般的武力の最高司令官となり，国家の一切の武力を指揮統率する」（第 102 条）とされたが，国防委員長になるための要件については明示されなかった。2016 年 6 月の憲法改正で国防委員長に代わって「最高領導者」とされた国務委員長の職位についても同様である。また，1998 年憲法で新規に導入された序文において

「金日成」は 16 回も連呼され，「朝鮮民主主義人民共和国社会主義憲法は，偉大な首領金日成同志の主体的な国家建設思想と国家建設業績を法文化した金日成憲法である」と明記された。2012 年憲法及び 2016 年憲法では「金日成」に 22 回，「金正日」に 17 回，2019 年憲法ではそれぞれ 24 回，18 回も連呼しつつ，現職指導者の正統性については明言していない。

（2）背景

ソ連・東欧社会主義体制の崩壊を経ても体制護持が図られたことを考えると，第 1 次継承は北朝鮮にとって成功した前例だといえる。だからこそその前例は，第 2 次継承において相当程度踏襲された。『労働新聞』は，金正日が後継者に内定した「1970 年代」と対比する記事を 2009 年からたびたび掲載した。そして金正恩公式化に際しては，金正日が公式化された第 6 回党大会に匹敵する会議の開催を準備した。それが第 3 回党代表者会であった。

2017 年 2 月にクアラルンプールで殺害された金正日の長男，金正男は，2010 年 10 月に東京新聞記者に対し，金正日は三代世襲に否定的であったが，それを強行しなくてはならない要因があった，と述べている。「いわゆる『白頭の血統』だけを信じて従うのに慣れた北朝鮮住民たちに，その血統でない後継者が登場する場合，面倒なこともあったことだと考えられます」，「今後集団指導体制に行くにしてもその中心を『白頭の血統』にしない場合権力層を維持できないと判断して，北朝鮮の内部的特殊性を考慮して『白頭の血統』に続く『三代世襲』を断行した」との見解である[79)]。

金正日が病に倒れると，急遽金正恩が後継者に内定したが，北朝鮮では第 1 次継承により権力世襲が既成事実化していたため，第 2 次継承では後継者の優秀さを宣伝すること以上に，「白頭の血統」を継いでいることの重要性が強調されるようになった。世襲による権力継承を受け入れる素地が北朝鮮社会に出来上がっていたのである[80)]。

党機関誌が金正恩の「偉大性」についての金正日の「お言葉」を初めて紹介したのは，金正日死後の 2012 年 3 月のことであった。その内容は，次の 12 項目である。

①「今日，わが革命は主体革命偉業遂行の重大な歴史的時期に入りました。私は，わが大将がいるゆえ，わが革命の前途についていつでも信念が固く，革命勝利に対する信心に溢れています。白頭で始まった主体革命偉業は，わが大将によって輝かしく継承されるでしょう。」

②「首領様は，私の思想や性格，趣味や習慣について不思議なほど白頭山に似ているとお話されましたが，わが大将は私に似ています。」

③「わが大将の精神と気質は，白頭山の精気と気性そのままです。その信念と意志がどれだけ強く，肝っ玉が強いか，ある時には私も感服するほどです。信念と意志において，胆力と肝っ玉において彼に及ぶだけの人はこの世にいないでしょう。」

④「彼は，天才中の天才です。わが大将は，軍事にも明るく，先端科学技術にも明るく，わが人民がどのようにすれば世界で最も尊厳高く幸福な生活を享受できるかということをよく理解し，遠く先を展望することのできる白頭山型の将軍です。」

⑤「今日，わが大将が近衛ソウル柳京洙第 105 戦車師団に行って訓練指導をしながら直接戦車を操縦して砲撃をしましたが，新年の初めての砲声を彼が鳴らしたというわけです。わが大将が鳴らした砲声は，西海進軍の初砲声であり，祖国統一偉業と主体革命偉業を白頭山銃隊でしっかりと継承完成していく揺るぎない信念と意志を内外に宣言した勝利の砲声であるということができます。」

⑥「わが大将は，情熱の人間です。彼の全ての魂は，私の健康のためであり，私の事業負担を軽くしてくれるためで一貫されており，彼にはいったん決心して開始した仕事は最後までやり遂げる気質があります。」

⑦「彼は，革命同志達に対する義理心も深いです。一回信頼を与え情を与えた同志達に対して最後まで大切にし，面倒を見てやるのは彼の美徳です。」

⑧「わが大将は，政治と軍事，経済，文化をはじめとした全ての分野に対する多方面的で該博な知識を所有しています。」

⑨「わが大将は，馬も騎手よりさらに上手に乗ります。彼は，水泳とバスケットボール，バドミントン，卓球をはじめとし，できない体育種目がありません。

　わが大将は，音楽にも造詣が深く，和声のようなものも特色があるように上手に編成して音楽編集までやります。」

⑩「金正恩大将は，私の後継者です。彼は，いま私の事業を多く補佐してくれています。」

⑪「今や，わが大将が私の事業を多く補佐してくれています。私は 22 歳の時から党中央委員会で事業をしながら実績を積みましたが，わが大将もやはりよくやっています。」

第 1 次権力継承と第 2 次権力継承の比較

金正日		金正恩	
1973 年 9 月	党中央委総会で組織・宣伝担当書記（31 歳）	2008 年 8 月	金正日が病に倒れる
1974 年 2 月	後継者に決定。「党中央」として活動開始（31 歳）	2008 年末	後継者に内定か（24 歳）*
1980 年 10 月	第 6 回党大会で政治局常務委員。公式化（名前を公開）（38 歳）	2010 年 9 月	党中央軍事委副委員長（委員長は金正日）。公式化（名前を公開）（26 歳）
1991 年 12 月	軍最高司令官（49 歳）	2011 年 12 月	金正日死去。直後に軍最高司令官（27 歳）
1992 年 4 月	共和国元帥（50 歳）	2012 年 4 月	金正日を「永遠の総書記」「永遠の国防委員長」にして，自身は新設の党第 1 書記と国防委員会第 1 委員長（28 歳）
1993 年 4 月	国防委員長（51 歳）	2012 年 7 月	共和国元帥（28 歳）
1994 年 7 月	金日成死去（52 歳）	2016 年 5 月	新設の党委員長（32 歳）
1997 年 10 月	新設の党総書記（金日成は党中央委員会総書記）（55 歳）	2016 年 6 月	国防委に代えて新設の国務委の委員長（32 歳）
1998 年 9 月	金日成を「永遠の主席」にして主席職廃止。明文規定なしで国防委員長を「国家の最高ポスト」に格上げ（56 歳）	*米国に亡命した叔母が 1984 年生まれと証言したことに準拠して年齢を算出した。誕生日は 1 月 8 日。	

後継内定から公式化（氏名公開），実際の権力継承までの期間

金正日		金正恩	
公式化	6 年 8 か月	公式化	約 2 年
権力継承	20 年 5 か月	権力継承	約 3 年

出所：礒﨑敦仁・澤田克己『新版北朝鮮入門』，53 頁を一部修正。

⑫「活動家達は，主体革命偉業継承の歴史的転換期に入った現実発展の要求に合うように，自らの責任を果たし，全ての部門，全ての単位でわが大将の領導をよく奉じていくようにしなければなりません。」[81)]

先代指導者に対する忠誠心のほか，金正恩の「胆力」や「義理心」などを称賛し，政治，軍事，経済のほかスポーツや音楽にも万能であることが示されて

いる。

その後，金正恩の「偉大性」についての宣伝扇動が活発化し，多くの出版物が公刊されるようになった。金正恩は，「思想も指導もそして風貌も金日成主席ならびに金正日総書記と寸分違わぬ偉人中の偉人である」とされ，先代指導者との連続性が強調される[82)]。

しかし，金正日と金正恩が親子関係にあることが明示されることはなく，金正恩が幼少期ないし少年期に撮られた金正日とのツーショット写真も公開されていない。そればかりでなく，金正恩がスイスに留学していたという事実や，金正恩の生母とされる高勇姫の存在も公表されていない。

4. おわりに

金正日は金日成から，金正恩は金正日から党，政府，軍の最高ポストを引き継ぐとともに，側近幹部や統治制度，統治イデオロギーも含む体制そのものを継承した。「最高領導者」のほか，「首領」「元帥様」「太陽」といった呼称も継承されて三者の連続性が強調される。

第 1 次権力継承と第 2 次権力継承の共通点としては，先代指導者の「革命伝統」を継ぐ人物であるとの正統性の宣伝が活発に行われたことが挙げられる。さらにとりわけ第 1 次継承では「人物本位」であることが強調された。また，党及び政府のポストに後継者が就任するにあたり，形式的であれ党大会，党代表者会，党中央委員会全員会議や最高人民会議といった会議の開催が重視された。

一方，相違点としては，第一に，時間的余裕の有無が挙げられる。第 1 次継承では，1974 年に後継者を内定し，1980 年にそれを公式化，1994 年に金日成が死去するまで，少なくとも 20 年間もの準備期間があった。それに対して第 2 次継承では，2008 年に金正日が病に倒れ，2010 年に後継者が公式化され，2011 年に金正日が死去するまでわずか 3 年間あまりの準備期間しかなかった。北朝鮮の主張通り 2005 年に金正恩が後継者になる意思を固めたとしても，そこから「最高領導者」になるまで 6 年間しかなかったことになり，第 1 次継承

の時間的余裕とは全く異なる状況にあった。

第二に，権力継承の円滑さである。第 1 次継承で金正日が後継者になることに対する反対があったとの明確な証左はない。しかし，後継内定から公式化まで 6 年間が費やされたことを考えると，後継体制の構築は慎重に進められたことが窺われる。金日成の側近幹部達が金正日をいかに支持したかのエピソードが流布され，国際共産主義運動の教訓から後継者を選定することについての意義が理論化されたのは，必要性に応じたものであろう。

一方，第 2 次継承で世襲が強行されることは，国内外で既成事実として受け止められていた。金正恩が朝鮮人民軍最高司令官に推戴された際の根拠が金正日の「遺訓」であると明示された点は，金正日の権威が確立されていたからこそ成しえたものであった。金正恩が第 3 回党代表者会で党中央軍事委員会副委員長に「選出」されるより前に，「朝鮮人民軍最高司令官命令」で大将の称号を授与されたことが公表された事実も同一の文脈で説明できよう。

世襲による権力継承の制度化については，評価が分かれうる。北朝鮮で後継者の正統性を説明する際に「世襲」という用語が用いられることはなく，とりわけ第 1 次継承の際にはその制度化が明確に否定されていた。党，政府，軍の首位に推戴ないし選出される過程については党規約や憲法に一部明文化されているが，金日成の血統を継いでいることが必須だという言及は皆無である。しかし，北朝鮮社会で重視されている『10 大原則』が改訂され，「わが党と革命の命脈を白頭の血統で永遠に継いでい」くことが明記された。『10 大原則』の位置付け方によって，制度化に対する評価が変わりうるということである。

（本研究の一部は，JSPS 科研費 18K01443 の助成を受けたものである。）

註

1）Charles K. Armstrong, Ideological Introversion and Regime Survival: North Korea's "Our-Style Socialism," Martin K. Dimirov ed., *Why Communism Did Not Collapse: Understanding Authoritarian Regime Resilience in Asia and Europe*, New York: Cambridge University Press, 2013, p.119.

2）　北朝鮮体制の長期的持続の条件については，拙稿「北朝鮮の個人支配体制」『法学研究』89 巻 3 号（2016 年），161 – 184 頁で整理した。

3）『朝鮮語大辞典（増補版）2』平壌：社会科学出版社，2007 年，1052 頁；『朝鮮語大辞典 1』平壌：社会科学出版社，1992 年，1979 頁；『朝鮮文化語辞典』平壌：社会科学出版社，1973 年，589 頁。

4）　鐸木昌之『北朝鮮――社会主義と伝統の共鳴』東京大学出版会，1992 年。

5）　例えば，李鍾奭『朝鮮労働党研究』ソウル：歴史批評社，1997 年；李璨行『金正日』ソウル：白山書堂，2001 年。

6）　拙稿「金正恩体制の構築過程―― 2008 年～2012 年」今村弘子編『東アジア分断国家――中台・南北朝鮮の共生は可能か』原書房，2013 年，131 – 178 頁；同「公式化以前の金正恩――金正日総書記の後継者だと確実視された背景」『法学研究』83 巻 12 号（2010 年），317 – 349 頁；中川雅彦「転換点としての 2010 年」中川雅彦編『朝鮮労働党の権力後継』アジア経済研究所，2011 年，2 – 5 頁；堀田幸裕「後継者問題と北朝鮮」『東亜』497 号（2008 年 11 月号），30 – 41 頁；同「北朝鮮『権力継承』の展望」『東亜』527 号（2011 年 5 月号），98 – 111 頁。平井久志『北朝鮮の指導体制と後継――金正日から金正恩へ』岩波現代文庫，2011 年は，党代表者会における金正恩の公式化に至る過程，北朝鮮における人事の特徴などについて広範な検証を行っている。伊豆見元「朝鮮半島の今後の動向と日本の対応」『外交』第 3 号，76 – 85 頁は，党代表者会と全員会議を通じて金正日が「自らの権威を高め，権力基盤をより強固なものとし，いわば『金正日長寿延命体制』の土台を築きあげた」と評している。韓国では，辺相定「第 3 次党代表者会分析と金正恩後継体制構築期の科学技術政策」『東北亜研究』第 25 巻第 2 号（2010 年），61 – 86 頁；李起東「第 3 次労働党代表者会以後北韓権力構造確立の争点及び課題」『韓国と国際政治』第 26 巻第 4 号（2010 年秋），215 – 242 頁；鄭成長「金正恩後継体系の公式化と北韓権力体系変化」『北韓研究学会報』第 14 巻第 2 号（2010 年），159 – 188 頁等。

7）　朴正鎮「北韓の人事異動と組織行動の変化分析――第 3 次党代表者会前後を中心に」『現代北韓研究』14 巻 3 号（2011 年），81 – 141 頁；中川雅彦「政治理念と政治エリート」前掲中川雅彦編『朝鮮労働党の権力後継』，9 – 24 頁；齋藤頼之「朝鮮労働党体制の公式化と先軍体制の定着・継承を誇示した党代表者会――党中央委員の系統別構成分析を中心に」『コリア研究』第 2 号，97 – 123 頁。

8）　宮本悟『北朝鮮ではなぜ軍事クーデターが起きないのか？』潮書房光人社，2013 年の第 7 章「権力継承と核兵器・弾道ミサイル開発」。

9）　金正恩政権下で歴史の書き換えが進んでいる。1992 年から 2012 年にかけて出版された『金日成全集』全 100 巻は，2017 年に突如として増補版の出版が開始され

た。

10）『金日成主席革命活動史』平壌：外国文出版社，2012 年，380 頁。「領袖」は「首領」の日本語訳。

11）『朝鮮労働党歴史 2』平壌：朝鮮労働党出版社，2018 年，12 頁。

12）『金正日総書記革命活動史』平壌：外国文出版社，2015 年，79 頁。

13）前掲，『朝鮮労働党歴史 2』，15 – 16 頁。

14）父親の金日成は 1912 年生まれであり，1945 年 10 月 14 日に初めて平壌市民の前に公然と姿を現した時は 33 歳であった。金正日と金正恩が後継者として表舞台に出てきたのは，それぞれ 38 歳と 26 歳の時である。金正恩の生年は公表されていないが，米国に亡命した叔母が 1984 年だと *Washington Post* に証言している。

15）前掲，『朝鮮労働党歴史 2』，14 – 15 頁。

16）例えば，「社説―偉大な首領様のお呼びかけと党中央の呼びかけを奉じて全党，全軍，全民が社会主義大建設事業に総動員されよう！」『労働新聞』1974 年 2 月 14 日付。

17）前掲，『金日成主席革命活動史』，382 頁。

18）前掲，『朝鮮労働党歴史 2』，15 頁。

19）前掲，鐸木『北朝鮮』，73 頁。

20）玄成日『北韓の国家戦略とパワーエリート――幹部政策を中心に』ソウル：ソニン，2007 年，280 – 285 頁。

21）「金主席の後継者は長男の金正一氏か」『朝日新聞』1975 年 9 月 22 日付（夕刊）；「金日成主席後継者　長男金正一氏選ぶ」『読売新聞』1975 年 9 月 23 日付。

22）坂井隆「金正日後継体制の形成」小此木政夫・徐大粛監修『資料北朝鮮研究 I 政治・思想』慶應義塾大学出版会，1998 年，264 頁。

23）前掲，『朝鮮労働党歴史 2』，17 – 27 頁。

24）同書，27 – 44 頁。

25）林哲「『十大原則』はいかにして国民の意識を縛って来たか」石丸次郎編『北朝鮮内部映像・文書資料集――金正恩の新『十大原則』策定・普及と張成沢粛清』アジアプレス・インターナショナル出版部，2014 年，43 頁。

26）「教示」は「マルスム」（お言葉）と同義で多用される。

27）金正日「全党と全社会に唯一思想体系をさらにしっかりと立てよう」『主体革命偉業の完成のために』第 3 巻，平壌：朝鮮労働党出版社，1987 年，107 – 117 頁；前掲，石丸次郎編『北朝鮮内部映像・文書資料集』，8 – 26 頁。

28）三つの運動については，前掲，李璨行『金正日』，459 – 468 頁。

29）『金正日同志略伝（増補版）』平壌：朝鮮労働党出版社，2008 年，250 – 255 頁。第 6 回党大会は，「偉大な首領金日成同志とともに敬愛する金正日同志を大会雛壇

に高く奉じて開催された栄光の大会だった」とされる。

30）100 万人パレードの様子を伝える 10 月 12 日付は 16 面構成，10 月 13 日付，10 月 14 日付はいずれも 24 面構成，閉幕の様子を伝える 10 月 15 日付は 20 面構成となっていた。

31）「朝鮮労働党第 6 回大会開幕」『労働新聞』1980 年 10 月 11 日付。

32）前掲，『朝鮮労働党歴史 2』，91 頁。

33）『朝鮮労働党歴史』平壌：朝鮮労働党出版社，2004 年，434 – 438 頁（第 2 章第 1 節「朝鮮労働党第 6 回大会」）。

34）『朝鮮労働党歴史』平壌：朝鮮労働党出版社，1991 年，527 – 531 頁（第 11 章第 1 節「朝鮮労働党第 6 回大会」）。

35）「朝鮮労働党中央委員会第 6 回第 1 回全員会議に関する公報」『労働新聞』1980 年 10 月 15 日付。

36）黄長燁（萩原遼訳）『狂犬におびえるな――続・金正日への宣戦布告』文藝春秋，2000 年，68 – 69 頁。

37）黄長燁（萩原遼訳）『金正日への宣戦布告――黄長燁回顧録』文藝春秋，1999 年，194 頁。

38）「朝鮮民主主義人民共和国中央人民委員会政令」『労働新聞』1974 年 2 月 16 日付。

39）鄭昌鉉（佐藤久訳）『真実の北朝鮮――元側近が証言する』青灯社，2011 年，258 – 259 頁。

40）前掲，黄長燁『金正日への宣戦布告』，199 頁。

41）前掲，鐸木『北朝鮮』，83 頁。

42）前掲，鄭昌鉉『真実の北朝鮮』，260 頁。

43）前掲，鐸木『北朝鮮』，73 頁。

44）同書，247 頁。

45）金裕民『後継者論』九月書房，1986 年，54 頁。

46）和田春樹『スターリン批判 1953～56 年――一人の独裁者の死が，いかに 20 世紀世界を揺り動かしたか』作品社，2016 年，338 頁。

47）前掲，金裕民『後継者論』，56 頁。

48）同書，62 頁。

49）同書，61 – 62 頁。

50）Atsuhito Isozaki and James Person, Five Lessons that North Korea Has Learned, *Understanding the North Korean Regime,* Washington DC: The Woodrow Wilson Center, 2017, pp.31 – 36.

51）金日成「党細胞の 5 大課業――全党党細胞書記大会代表達に送った祝賀文 1994

年 3 月 31 日」『金日成全集』第 94 巻，平壌：朝鮮労働党出版社，2011 年，255 頁。

52）　李洪林「領袖和人民」『人民日报』1980 年 9 月 19 日付。

53）　坂井隆「金正日後継体制の形成」前掲，『資料北朝鮮研究Ⅰ』，266 頁。

54）　例えば日本では，井上周八『現代朝鮮と金正日書記』雄山閣，1983 年；崔仁秀『人民の指導者 金正日書記』第 1・2 巻，雄山閣，1983 年；卓珍（金日成主席著作翻訳委員会訳）『偉大な指導者金正日』上・下巻，未來社，1985 年。

55）　在日本朝鮮人総聯合会中央常任委員会『後継者問題と朝鮮』九月書房，1991 年，35 – 40 頁。

56）　同書，40 – 41 頁。

57）　同書，42 – 47 頁。

58）　前掲，鄭昌鉉『真実の金正日』，239 頁。

59）　本節は，拙稿「第 3 回朝鮮労働党代表者会における金正恩公式化と『先軍』の継続意思」小此木政夫ほか編著『朝鮮半島の秩序再編』慶應義塾大学出版会，2013 年，59 – 88 頁の一部を大幅に加筆修正したものである。

60）　鈴木琢磨「銃のバトンで軍力強化――朝鮮総連学習資料　正恩氏『足跡』明かす」『毎日新聞』2019 年 5 月 13 日付；『21 世紀の太陽金正恩元帥様』平壌：在日本朝鮮社会科学者協会，2018 年，94 頁。

61）「23 日発表された朝鮮労働党代表者会を招集することについての朝鮮労働党中央委員会政治局決定書」『労働新聞』2010 年 6 月 26 日付。

62）　拙稿「金正恩委員長のリーダーシップ――スピード感，実用主義，プロセス重視」『岐路に立つ朝鮮半島』日本経済研究センター2018 年度アジア研究報告書，2019 年，71 – 82 頁。

63）　政府機関紙でも同様の傾向は見られた。例えば，「政論――栄光のその日に向かって」『民主朝鮮』2010 年 7 月 11 日付は，「党代表者会をわが党と祖国史に末永く輝く慶事として意義深く迎えようと全国が立ち上がっている」としながら，「波瀾万丈の人類の政治史を顧みると，首領の党として歴史の舞台に出現しながらも指導の代を正しく継承できなかったため後世が災いを被らなければならなかった悲劇が記録されている」などと述べている。

64）「朝鮮労働党代表者会をわが党と祖国青史に長く輝く慶事として意義深く迎えるための決起集会――四大先行部門工場，企業所で開催」『労働新聞』2010 年 7 月 15 日付；「朝鮮労働党代表者会を迎え人民生活向上のための大高潮の熱風を強く起こそう――軽工業，農業関連部門単位で決起集会開催」『労働新聞』2010 年 7 月 17 日付；「経済強国建設で誇らしい成果を成し遂げて党代表者会を意義深く迎えよう――各地工場，企業所で決起集会開催」『労働新聞』2010 年 7 月 18 日付；「朝鮮労働党代表者会を高い政治的熱意と輝かしい労力的成果で迎えるために総突撃前へ

――科学，教育，保健，商業部門で決起集会開催」『労働新聞』2010 年 7 月 20 日付。

65）　例えば，「偉大な金正日同志を朝鮮労働党代表者会代表に推戴することはわが党の人民の最大の栄光――朝鮮労働党黄海北道，黄海南道，南浦市代表会開催」『労働新聞』2010 年 9 月 1 日付；「敬愛する金正日同志をわが党の最高首位に変わりなくお仕えすることは千万軍民の最大の栄光，最大の幸福――朝鮮労働党平壌市代表会開催」『労働新聞』2010 年 9 月 2 日付によれば，平壌では 8 月 28 日人民文化宮殿で代表会が開催されたという。「敬愛する金正日同志の領導に従って白頭で開拓された主体革命偉業を主体革命偉業を輝かしく完成しよう――朝鮮労働党慈江道，両江道代表会開催」『労働新聞』2010 年 9 月 3 日付も両道で 8 月 28 日開催と明示。なお，8 月 28 日付，29 日付，30 日付，9 月 1 日付，3 日付，4 日付『労働新聞』がそれぞれ一面で代表会開催の事実を報じていたが，9 月 2 日付一面には中朝関係に関する社説が掲載された。

66）　前掲，「『労働新聞』『朝鮮人民軍』『青年前衛』共同社説――党創建 65 周年を迎える今年にもう一度軽工業と農業に拍車をかけ人民生活で決定的転換を成し遂げよう」。

67）　代表者の構成比率は，党幹部代表 672 名，軍人代表 451 名，国家行政・経済幹部代表 343 名，科学・教育・保健・文化芸術・出版報道各部門幹部代表 75 名，現場で働く核心党員代表 116 名と公表された。

68）「朝鮮人民軍最高司令官命令――朝鮮人民軍指揮成員達の軍事称号を授与することについて」『労働新聞』2010 年 9 月 28 日付。

69）　この時点で判明していた朝鮮人民軍の階級は元帥 1 名，次帥 8 名，大将 26 名，上将 54 名。

70）　崔龍海国防委員会第 1 副委員長は，第 1 次継承で触れた崔賢の子である。

71）　党代表者会における金正恩の写真が公開されたのは，9 月 30 日になってからであった。

72）　金正日の場合は，後継者として内定してから 6 年ほどの準備期間を経て，1980 年 10 月の第 6 回党大会で初めて公式報道にその名を現わした。その後は長らく動静報道がなく，1981 年 5 月 30 日に金日成の側近幹部だった沈昌完の霊前を弔問した（5 月 29 日）と報じられ，妙香山地区（5 月 18 日～22 日）を皮切りに，徐々に「実務指導」が開始された。同年中に李季白朝鮮総聯副議長や在日朝鮮青年学生祝賀団等とも会見しているが，外国要人との会見は 1983 年に入ってからのことである。

73）　1997 年の推戴過程については，拙稿「金正日体制の出帆――『苦難の行軍』から『強盛大国』論へ」鐸木昌之・平岩俊司・倉田秀也共編『朝鮮半島と国際政治

――冷戦の展開と変容』慶應義塾大学出版会，2005 年，172 – 175 頁。

74）　2010 年の党規約改正の詳細については，李起東「北韓労働党規約改正と権力構造」『国防研究』第 54 巻第 1 号（2011 年 4 月），77 – 93 頁。李は，新規約は「今後改革開放路線を採択する可能性を暗示したり，体制の柔軟化を示唆する段落もない」などとして「過去指向的で復古的性格」だと評価している。

75）　李策「金正恩による 6.19 演説を読み解く――政治学習で『十大原則』の浸透図る朝鮮労働党」前掲，石丸次郎編『北朝鮮内部映像・文書資料集』，34 頁。

76）　前掲，石丸次郎編『北朝鮮内部映像・文書資料集』，14 – 26 頁。

77）　同書，25 頁。

78）　前掲，李策，40 – 41 頁も「一族による権力の世襲を永遠に続けていくという宣言」と評価している。

79）　五味洋治『父・金正日と私――金正男独占告白』文藝春秋，2012 年，59, 87 頁。

80）　Armstrong, op. cit., pp.117 – 118.

81）「偉大な領導者金正日同志が敬愛する金正恩同志の偉人的風貌について話されたお言葉（抜粋）」『勤労者』2012 年第 3 号（累計 839 号），3 頁。翌年には続編が掲載された（「偉大な領導者金正日同志が敬愛する金正恩同志の偉大性についてされたお言葉（抜粋）」『勤労者』2013 年第 5 号（累計 853 号），3 – 4 頁）。

82）『金正恩逸話集』平壌：外国文出版社，2017 年の「はじめに」。